

荒玉探検隊、「草枕」の舞台を旅する

玉名地域振興局ニュース 「草枕」の舞台を旅する

振興局新聞 vol15
総務振興課発行
平成 21 年 2 月 23 日

「草枕」には、峠の茶屋は軒しか出てこない。鳥越の野出の二つの茶屋があったという。現
●峠の茶屋公園 熊本市河内町岳9の4 TEL096-277-2157



「おい」と声を掛けたが返事が無い。軒下から奥をのぞくと煤けた障子が立ってきつてある。向こう側は見えない。(草枕より)

今回の荒玉探検隊は、ある日の昼休み、荒玉探検隊長が「夏目漱石の「草枕」は、玉名の天水が舞台つて知ってるね？」とH隊員にたずねたことから始まった。
明治29年4月13日、第五高等学校教師として熊本入りした夏目金之助先生(夏目漱石)は、池田駅(現上熊本駅)に降り立ち、翌30年の暮れも押し迫った頃、その年の正月、教え子たちが押しかけて大変だった事から今度の正月はゆつくり過ごそうと、熊本で3番目となった大江の家を出て、友人の山川信次郎とともに、金峰山系の二つの山を越え、小天温泉・前田案山子の別邸を訪ねる旅に出ます。この旅が、小説「草枕」の舞台となったのです。今でもいたるところに当時の面影が残っています。
そこで、荒玉探検隊は、「管内にあるその道を訪ねずしてどうする!」ということ、それこそ暮れも押し迫った十二月末に隊員を六名に増やして旅することになりました。
漱石は大江の家から歩いて峠を越えましたが、足腰弱い荒玉探検隊は、現在鳥越に残る峠の茶屋公園に集合し出発しました。
熊本交通センター発小天行きバスは思いのほか満員。しかもそのほとんどが、「草枕の旅」を目指す人たちでした。「おい」と声を掛けたが返事がなかった「峠の茶屋」は、現在は資



路は存外広くなって、且つ平らだが、歩くには骨は折れんが、雨具の用意がないので急ぐ。……
私たちは、晴天に恵まれ、仕事を離れて話に花が咲きます。田んぼや小川を眺めながら、暖かな日差しの中を歩く旅は快適です。一行は、いよいよ石畳の道へと向かいます。
意外と急な坂道の石畳の道。みんな真剣に歩いていきます。ここでバスで乗り合わせた団体と一緒にになりました。この団体も職場の仲間に参加されているそうです。
私たちが歩いた十二月はいたるところにみかんがなっていて、黄色の実がまぶしいほど。そう、天水はみかんの産地です。

料館となっており、老婦人がにこやかに迎えてくださいました。
さあ、出発!鳥越峠を越え、金峰山の北の谷あいを歩くと趣きのある竹林が続きます。



山路を登りながら、こう考えた智に働けば角が立つ
情に棹させば流される
意地を通せば窮屈だ
とかく
人の世は住みにくい



「草枕の道」の大半は、明治30年当時、熊本と高瀬(現玉名市)を結ぶ往還でした。追分を天水へ数十メートル先、県道から山あいに分け入ると、「石畳の道」が始まります。ここは往時の面影を深く残しているところで、竹林の影に入ると汗ばんでいた肌もひんやりとします。その雰囲気に、あたかも漱石と一緒に歩いているような錯覚さえ覚えます。

参考資料:草枕交流館作成「草枕の旅」読本



隊長「こっちの方向で間違いないよ」

石畳の道を登り、幹線道路に入ります。眼下には有明海が広がり、遠く雲仙も見えます。そして、私たちは野出(のいで)の峠に到着しました。絶景、絶景!なんと良い景色でしょう。

天草の 後ろに寒き 入り日かな

漱石はここで夕日を迎えたのですね。きつと素晴らしい夕日だったことでしょう。かつてはここに隣接して茶屋が建っていたそうで現在はみか園となっています。



当時は、小天からは馬に背負わせたみかんを熊本市新町の市場に出荷していたそう。公園にはベンチもあり、当日も多く「草枕の旅」を楽しむ観光客が、昼食をとったり写真を撮ったりと休憩していました。ここで私たちも軽い昼食をとる予定でしたが、ゴールの草枕てんすい近くでパーベキューとビールを早く楽しみたいと、小天を目指して旅路を急ぎました。



みんなお腹がすいてきたので黙々と歩きます。枯葉でふかふとした道をサクサク音を立てながら、「漱石が歩いたときは年の瀬。さぞかし寒かったろうなあ。」と思いをめぐらします。道はまだ続きます。途中、「ほんとはこの道で大丈夫なの。」と心配しながら、でも、大丈夫、ちゃんと所要所に道案内の矢印があります。

さあ、やっと草枕温泉てんすいに着きました。途中前田案山子の墓標におまいりし、私たち一行は「草枕交流館」に着きました。草枕交流館では、夏目漱石が魅せられた小天、「草枕」の背景をビデ

草枕温泉から下ったところにある「草枕交流館」は入館無料。開館時間：午前9時～午後5時 休館日：水曜日



オで分かりやすく紹介されます。これを見ると「草枕」の背景や歩いてきた道のりをしつかりとおさえることができます。写真や資料も豊富で、草枕を題材に描かれた草枕絵巻、草枕の元

となり、宮崎駿の映画「崖の上のポニョ」の元にもなったミレイの「オフィリア」の複製も展示されています。また、荒尾の宮崎兄弟と前田案山子の交流、柳原白蓮と宮崎龍介のロマンスを説明する資料も充実しており、館長自ら説明してくださることもあります。ぜひ、こちらに寄られる事をおすすめします。草枕交流館近くには、草枕で主人公がお風呂に入っているときに魅力的なヒロイン那美が入ってきた浴場の後も残っています。また、温泉食事処として「草枕てんすい」、「那古井館」、パンやピザの窯焼き体験ができる「果夢樹」、「花の館」などもあります。この日、私たちは、水元オレンジガーデンでパーベキューを楽しみました。約3時間の旅で、お腹ペコペコのみんなは無口になっていましたが、おいしいお肉を食べて、ビールを飲んで笑顔が戻りました。水元オレンジガーデンではみかん狩りも楽しめ、休日は親子連れで賑わいます。お腹いっぱいになった私たちは、水元オレンジガーデン下の立



草枕交流館では、来る三月二十日祝日に体験ワークショップを企画されています。また、水元オレンジガーデンさんをはじめとする地元の地域づくりメンバーの皆さんで、五月の連休に「みかんの花ワークショップ」を企画されます。皆さんもぜひこの機会に「草枕」を旅してみませんか?



熊本の牧場から直接生の牛肉を仕入れていっしょるのでおいしいですよ。

今回の道のりは、10:20 交通センター発産交バス 23 番乗り場峠の茶屋經由温泉センター行き 10:41 峠の茶屋下車(340 円) 10:45~13:30 ウオーキング 13:30~草枕交流館見学 14:30 水元オレンジガーデンでBQ 16:36 立石バス停から交通センター行き(所用時間 50 分 720 円)でした。